

# 令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	「クルマ」と「自動化するクルマ」の社会的受容に関する研究	
<p>本年度は、1)AVsの社会的受容計測のための質問紙調査を補完する指標の検討、2)クルマ社会とその自動化がもたらす社会的影響の抽出・緩和策の検討を目的とした調査研究を行う。</p> <p>1)AVsの社会的受容計測のための質問紙調査を補完する指標の検討</p> <p>AVsの社会的受容を計測する質問紙調査を実証実験や本格導入を行った地域の住民・来訪者・事業者を対象として実施するとともに、当該地域のAVs車両外部の動画データを収集・解析することでAVsを取り巻く交通参加者の受容性を把握する手法を検討する。</p> <p>研究の方法は、AVsの実証実験/本格導入を行っている地域において、2025年度までに開発した社会的受容計測の標準指標を用いた質問紙調査を行う。それに加えて、当該AVs車両外部の動画データを目視あるいはAI等を用いて分析することにより、周囲の車両・歩行者・自転車など、他の交通参加者からAVsバスがどのように受容されているかを評価する。対象地域としては、これまで申請者が質問紙調査や実証実験に携わってきた茨城県日立BRT、神奈川県川崎市、青森県奥入瀬溪流のいずれかを想定している。</p> <p>2)クルマ社会とその自動化がもたらす社会的影響の抽出・緩和策の検討</p> <p>モータリゼーションとその自動化が社会にもたらす影響をいくつか抽出し、緩和策を検討する。具体的には、子供のCIM (Children's Independent Mobility)、バスドライバー不足にAVs報道が与えるモラルハザード等を想定している。</p> <p>研究の方法は、モータリゼーションに伴う諸課題(バスドライバー不足、子供のCIM低下、等を想定)とクルマの自動化による影響の実態について、以下の点に取り組みたい。</p> <p>① AVsバス実証実験の報道がバスドライバー不足に与える影響を把握するため新聞記事の経年変化を分析すると共に、バス事業者の経営層・運転士へのインタビュー調査、それらを踏まえた仮説導出とアンケート調査を行う。</p> <p>②子供のCIM低下が子供の心身や大人の送迎行動にもたらす影響を把握するため様々な年代の女性(1940年代-1990年代生まれ等)へのインタビュー調査、商店街の喪失やコンビニエンスストアの台頭など周辺環境の文献調査等を踏まえた仮説導出と検証のためのアンケート調査を行う。</p>		